

ふるさとの 其の48 誇り

新年の風物詩

西南湖の獅子舞



演目「梅川忠兵衛」



安藤家住宅の奥座敷で舞われた獅子舞の様子

獅子舞とは、疫病退治・悪魔払いをするため、祭り囃子にあわせて獅子頭をかぶって舞い踊る日本の伝統芸能の一つです。

日本の獅子舞の始まりは、16世紀初めに伊勢の国で飢饉や疫病を追い払うために獅子頭を作り、正月に獅子舞を舞ったのが始まりといわれており、その後室町時代から江戸時代の初めごろに「江戸大神楽師」「伊勢大神楽師」と呼ばれる団体が全国を獅子舞を踊りながらまわり、悪魔払いをしたのがきっかけで、日本各地に急速に広まったと言われています。

西南湖の獅子舞は、明治20年ごろ、隣の和泉地区の若者より衣装一式を譲り受け、道祖神祭りに厄払いの行事として青年団が始めたのが発端と言われており、市の無形民俗文化財に指

参考文献
日本いろは事典プロジェクトスタッフ著『日本の伝統文化・芸能事典』汐文社



祝い事や厄年にあたる人がいる家を巡ります

定されています。

初めは平舞といった、一人が獅子の面をかぶり、一人が着物の裾を持って、集落の各戸を短時間で舞い歩くものでしたが、その後、年を重ねるにつれ、鳥さし舞、梵天舞、厄舞、狂い獅子、お亀舞など変化のある舞い方をするようになり、二人で舞っていたものが、太鼓と横笛を加えた四人一組で舞うようになりました。当初は若者が受け持ちで舞っていましたが、内容が複雑化するにつれ、練習に時間がかかるようになったため、特定の人が舞うようになりました。

大正の中ごろになると、獅子の塗りがはげたり、色があせたりしてきたため新調し、これをきっかけに県の無形民俗文化財に指定されている

下市之瀬地区から獅子舞の指導を受け、以後下市之瀬の獅子舞と同じく、段物を舞うことになりました。

現在は、西南湖獅子舞保存会が中心となり、新築した家や、結婚、出産、成人、厄年に当たる人がいる家で、平舞・三段舞・梅川忠兵衛・八百屋お七などが舞われています。

紹介している写真は、西南湖地区にある、国重要文化財・安藤家住宅で行われた獅子舞の様子です。

今年もまた1月10日(月)に、安藤家でも獅子舞が舞われます。興味のある方は、ぜひ安藤家にお越しいただき、歴史ある西南湖の獅子舞を見学されてはいかがでしょうか。